

国語 第2学年 みの回りのものを読もう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：身の回りの掲示や案内から、目的に必要な語や文を選んで読む。文字の大きさだけで重要さを決めない。
C(1)ウの学習として、行動の目的、必要な語と文、確かめた情報とまだ不明なこと。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、案内の中から目的に必要な重要な語や文を考えて選び出しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)ウの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：行動の目的、必要な語と文、確かめた情報とまだ不明なことを残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)ウに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：題名だけを読んで行動を決める、図の印象から書かれていない内容を補う。これに対して、教師作成の架空の催しの案内で、目的・日時・場所を探す。実在の連絡先や児童の個人情報は載せず、条件の欠けた案内と比較して必要な語を考える。〔知識及び技能〕(1)オとC(1)ウを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この案内を見て行動するには、どの言葉を確かめる必要がありますか」に戻す。
言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)ウに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：行動の目的、必要な語と文、確かめた情報とまだ不明なことは紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)ウの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)ウで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、練習と使えるようになった姿をどう分けるか。

返し：教師作成の架空の催しの案内で、目的・日時・場所を探す。実在の連絡先や児童の個人情報は載せず、条件の欠けた案内と比較して必要な語を考える。完成品だけでなく、行動の目的、必要な語と文、確かめた情報とまだ不明なこと。を見て、確かめ方と変えた理由を判断する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この案内を見て行動するには、どの言葉を確かめる必要がありますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)ウに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

